

見つめる目

しなやかな心

医療を支える 看護の手

看護部だより

2015年
10月号
第294号

特定医療法人衆済会
増子記念病院
看護部
部長 上村 志磨子
(認定看護管理者)

32年を振り返って！

第2透析室 主任 久堀 仁資

今年で勤続32年を迎えました。自分が入社した時は透析について何も知らなく、今のように新入社員教育も無く、他の部署も2、3日見学する程度でした。透析については患者さんにいろいろ教えて頂いた時代でした。当然先輩の指導がありますが、昔は今の昴が出来る前、2ヶ所の分院がありました。稲葉地分院と、則武分院です。自分は、最初に配属になったのが則武分院で、SDU(セルフ・ダイアリス・ユニット)「自主管理透析」を行っていました。患者さんも、「自分の体は自分が管理する」という意識がすごく高かったと思います。中でも驚いたのが自己穿刺をほとんどの患者さんが行っていたことです。自己穿刺が出来ることが、分院でのステータスのような感じがありました。患者さんも医学的な事ではなく、自分が体験してきた事を色々と教えてくれ、生きた指導のようでした。時代は変わっていくものですね。自分も歳をとっていきますが、元気だった患者さんも車いす移動に変わり、以前は患者さんと合同で運動会を行っていた事もありました。

1 穿刺回数

ある日、今まで自分が行ってきた穿刺について、何回穿刺したのだろうかなんて、ふっと思い計算してみました。一日、5人の患者さんに穿刺をするとA側V側で10回の穿刺になります。 $10(\text{回}) \times 5(\text{日}) \times 4(\text{週}) \times 12(\text{月}) \times 32(\text{年}) = 76800(\text{回})$ 。意外と少ないと感じました。意外です！

2 増子記念病院の魅力

自分も増子に入る前は、資格を取るために違う病院に勤務していました。資格取得後は名古屋のネオンの光に導かれるように、中村区へ引っ越して来ました。違う病院を経験しているからか、増子がなんて仕事のしやすい、居心地良い病院だろうといつも思っています。最近、直ぐに辞めてしまうスタッフもいますが、増子より仕事のしやすい病院は他にないと思っています。

3 男性看護師

今では珍しくない男性看護師ですが、30年前は少なかったもので、病院では女性優位の感じがしますが、自分は全く感じませんでした。何故なら看護師は少なかったのですが、臨床工学技士で同じ年齢の男性陣がいたおかげです。ゴルフをやったり、野球の試合をしたりと楽しく過ごさせてもらいました。その後から少しずつ男性看護師が増えてきたのです。



4 恩返し

自分は、新人の時からいろいろな先輩に指導して頂きましたが、自分は説明とか、指導がどうしても苦手で後輩を育てることが出来ません。

30 年間勤めさせていただいた増子に少しでも恩返しができるのであれば、頼りになる後輩の育成かと思いますが、以前に比べて技術を習得するとか、先輩の技を盗むとか、そんな貪欲な感じが全くなくなったような感じがします。自分の時は同僚よりも上手になりたい、早く出来るようになりたいと貪欲だったように思います。知識は覚えれば良いのですが、テクニックとかは口で言って分かるものではないと思うので、残り少ない時間ではありますが、スペシャリストを育てたいと思っています。

以上

学生コーナー

日々精進していきます

4 階病棟 看護学生 成田汐里

名古屋に来て 3 年が過ぎました。当初は新しい環境での生活に戸惑いながらも、病棟の仕事に早く慣れるためにきびきびと働く先輩方のあとを必死で追いかける日々でした。どれだけ忙しくても丁寧に患者さんの対応をし、臨機応変にてきぱきと動く先輩との仕事は刺激的な毎日でした。また、学生寮の引っ越し、そして病院の改築に伴いこれまでの 3 病棟が合併し 2 病棟になり、と怒涛の日々が続く、気づけば今年 3 年目になりました。

3 年生になって、看護学生という枠で今まで以上に主体的に働くことが多くなり、後輩をもつ先輩としての責任も以前より大きくなりました。最高学年としていざ後輩に教える立場となると、自

分の働く姿勢、患者さんとの関わり方一つで後輩の働き方にも影響を与えるのだと改めて感じました。とはいえ、後輩の環境の適応能力の高さやコミュニケーション能力に驚かされることもあります。

後輩には患者さんとのコミュニケーションを大事にしながら信頼される看護学生になってほしいと思います。

また、学校の方では、私は来年 1 月から始まる看護実習を控えています。期間が長い上、基礎実習の時と比べ物にならない、より深い知識、より確かな技術が必要になるかと思っています。そのため乗り越えられるだろうかという不安や心配も多くあります。しかし努力を怠ることだけはしないように病棟での経験も活かしながら実習に臨もうと思っています。

仕事と学校を両立させる生活は忙しいです。ですが、新しい発見や驚きがあり、私にとってとても充実した毎日を、同じ学校に通う同期に支えられながらも過ごしています。

まだまだ分からないことはたくさんあり、知識や技術の浅さを思い知らされています。それは看護学生として働いているからこそ感じる事ができるのだと思います。また、知識・技術だけでなく人生経験が自分よりはるかに豊富な患者さんとの関わり合いの中で高められる人間性も大事にしたいです。

常に患者さんの“命”に関わらせていただいているということを忘れずに学ぶ意欲・姿勢をここで改め、日々精進していきます。

以上

部署報告：第 2 透析室

第 2 透析室 丹羽美樹 森山恵里
鈴木真澄美 西田歩

1 はじめに

平成 27 年 3 月 2 日から新第 2 透析室が開設されました。ベッド数も 23 床から 46 床へ増床され、これまでの透析室のオープンフロアから「プライベートスペースに配慮を」との目的でベッド周囲にパーティションが設置されました。今回、第 2 透析室で治療している患者の方々の意見を参考に以前の環境から、現在の治療環境に変わったことに対する聞き取り調査を行いましたので報告します。



2 対象

当院外来透析に通院されている第 2 透析室透析患者 128 名。

3 方法

アンケート用紙を作成し、聞き取りを行う。

4 倫理的配慮

当院倫理審査委員会にて承認を得て実施
(承認番号増子 H27-40)

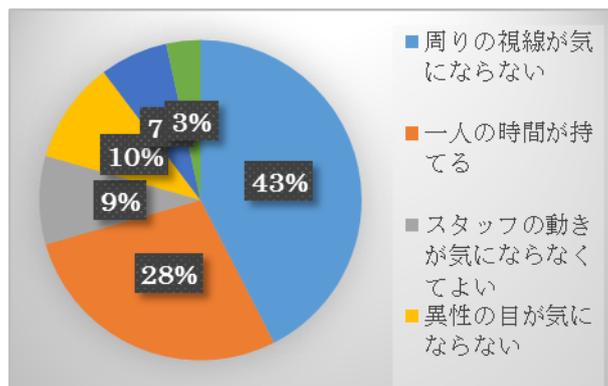
個人を特定する表記などないことを文章、口頭にて説明し同意を得る。

5 結果

第 2 透析室患者 128 名に配布し 90 名の回答が得られた。

(回収率 70.31% 平均年齢 61.4 歳)

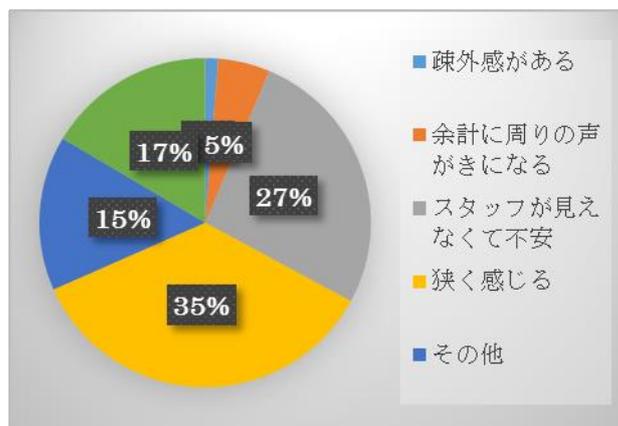
1) パーティションがあることで良かったと思う点はありますか？ (複数回答可)



その他

- ・スタッフも良かったのでは？以前は穿刺する時にお尻がぶつかっていたから
- ・変わらない、特にない
- ・周りの音が気にならない
- ・落ち着く ・良く眠ることができる
- ・他人が視界に入るから見えなくていい
- ・快適、気が楽になった
- ・病院の気配りが感じられる

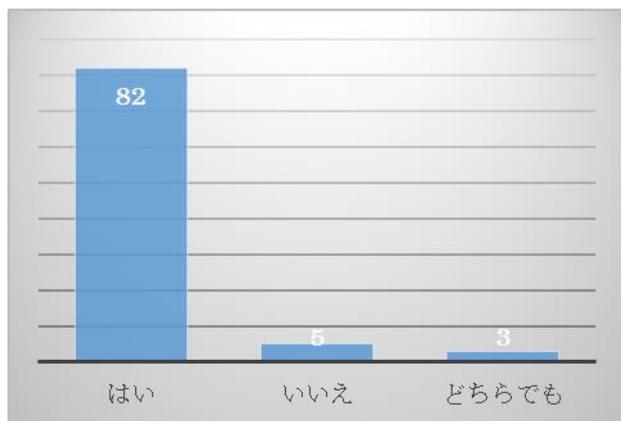
2) パーティションがあることで不便だと思う点？ (複数回答可)



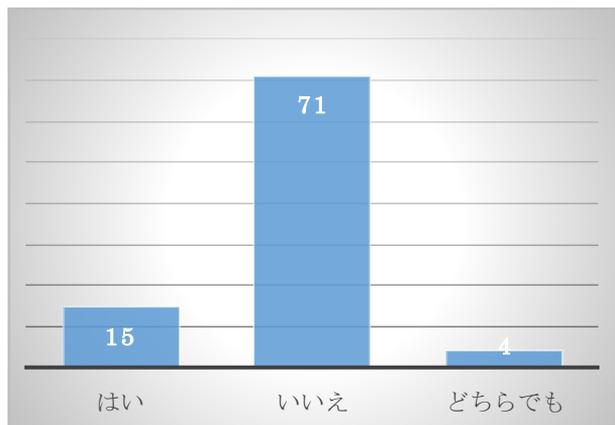
その他

- ・特になし
- ・周りが見えない
- ・時計がみえない
- ・いびきが気になる
- ・不便はない

3) プライバシーは守られていると思いますか？



4) 透析治療を行う環境として以前の方が良いですか？



6 考察

全患者からの回答は得られなかったが、今回のアンケート結果よりパーテーション設置により、「周りの視線が気にならない」、「自分の時間が持てる」、「プライバシーを保護できている」という回答が半数を占めました。その一方、「スタッフが見えなくて不安」、「狭く感じる」という回答も半数以上あり、壁ができることへの圧迫感、他者が見えないことでの疎外感があるのではないかと考えます。

「スタッフが見えなくて不安」という意見、「他者が見えないことでの疎外感」に対しては患者が負担にならない程度にラウンドの回数を増やし、患者へ声掛けを行い、体調の変化や不安を訴えやすい環境を作ることや時間チェックでの観察を強化して不安や疎外感の軽減を図ることが必要ではないかと考えられます。壁があることでの圧迫感や、狭さについては限られた空間の中でも動きやすい導線を意識し、物品の配置やベッドの位置、コンソールの位置などを工夫していくことが必要です。看護学においても患者の環境は、ナイチンゲールの「看護覚え書」（1859）がその調整の重要性を述べて以来、看護が考慮すべき対象と理解されてきました。環境は、看護における重要な概念であるため医療の安全性と同等に治療環境にも着目し取り組むことも重要であると考えます。

7 結語

昔は、平家住まいで近所付き合いなど人との付き合いが多かった時代から、近年、核家族化が進み個人情報、プライバシーの保護が重要視されてきています。そのため、パーテーションがあることで治療に対し「スタッフが見えなくて不安」、「異常を発見するのが遅れる」などデメリットもありますが、「周りの視線が気にならない」、「一人の時間が持てる」と答えた患者が多いこと、また「プライバシーは守られている」と感じている患者が 82%と大半を占めていることから、プライバシー保護の観点からはパーテーションを設置したことにより効果があったと思います。このアンケート結果をもとに、デメリットとして挙げられていた部分で、患者の負担にならない程度のラウンドの強化、時間チェックでの観察を強化し、安全な透析が行えるよう取り組んでいきたい。

※引用参考文献

日本看護研究学会誌 Vol.35 No.5 2012 一般病
床患者と看護師による療養環境評価の特性



ワーク・ライフ・バランス通信

（第 1 号）

1 はじめに

皆さんすでにご存じのように、平成 27 年度
の看護部の取り組みとして、愛知県看護協会の
ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ
事業へ参加することになりました。

この事業に参加して何をやるの？何が始ま
るの？どんなことをやるの？などあまりよく
わからないと思う方もみえるのではないでし
ょうか。

この事業は、私達増子記念病院の職員が、
Work（仕事）も Life（遊びも趣味も子育ても
介護・）も楽しく充実感があり、生き生きと
した生活が送れるよう、魅力ある職場環境を目
指し取り組んでいきます。「こうしたらもっと
働きやすいよね」「こうなれたらいいよね」な
ど、全ての職員が事業に興味を持ち、皆で考え、
行動することで、ワークとライフのバランスが
より良いものになると思います。

2 WLB 推進事業の経過

平成 19 年に内閣府が「仕事と生活の調和憲
章」を策定し、同年から日本看護協会が厚生労
働省補助金により、「看護職の多様な勤務形態
による就業促進事業」（3 か年事業）を実施しま
した。

そして、平成 22 年度から「看護職のワー
ク・ライフ・バランス（以下 WLB）推進ワ
ークショップ」事業がスタートしました。

愛知県看護協会は平成 24 年度からこの事
業に参加し、平成 26 年度までに 18 施設、
平成 27 年度は当院を含む 5 施設が新たに参
加しています。

2 WLB とは

「仕事と仕事以外の諸活動がバランスの
とれた状態にあること」です。

仕事と生活を調和させることで、両者間に
好ましい相乗効果を高めようという考え方、
そして取り組みのことを指します。

3 当事業に対する現在までの当院の取 組み

平成 26 年 3 月

「平成 27 年度ワーク・ライフ・バラン
ス推進ワークショップ事業参加施設」と
して当院は申し込みました。

平成 26 年 6 月

インデックス調査を実施。

平成 27 年 4 月

WLB 推進担当のメンバーを決定。

平成 27 年 6 月

ワーク・ライフ・バランス推進ワー
クショップ事業に参加。

インデックス調査を実施。

（全看護職 181 名中 178 名回答）

8 月 7.8 日

インデックス調査の結果を基に当院
の強み、弱みなどの現状分析を行っ
た。

8.9 月

インデックス調査結果を各部署に配布し、結果に対する意見を部署単位で収集した。

8 月 21 日

現状分析からアクションプランを計画し提出した。

（アクションプランとは：当院のビジョンやミッション、課題、年間計画や 3 年後のゴール目標）

9 月 3 日

WLB 推進事業 参加施設訪問。

看護協会常務理事、当院の地域支援者（刈谷豊田総合病院看護部長）が当院を訪問。院長、事務長、看護部長、WLB ワークショップ参加者が出席し、WLB 推進事業についての説明、アクションプランの補足やアドバイスをいただいた。

9 月 4 日 WLB 小委員会の立ち上げ。

9 月 11 日 アクションプランに対し具体的な計画内容を作成した。

10 月 23 日 看護協会にて進捗報告会に参加しプランを報告する予定。

4 計画内容の作成

事業参加から数か月間、手探り状態ながらも WLB 委員で検討を重ね、アクションプランに対する具体的な計画内容を作成しました。

今後は皆さんにも積極的に参加していただき、率直な意見をいただきながら、進めていきたいと思います。

今回は、WLB 推進事業と当院での今後の活動等について紹介いたしました。

今後は WLB 小委員会を中心に本事業に取り組んでいきますので、皆様のご理解、ご協力をよろしく申し上げます。

WLB 小委員会

文責 川元早苗

<参考>

愛知県看護協会「資料 1」看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ事業について

以上

看護部だより 9 月号の感想

第 3 透析室 岩屋 郁子

第 1 透析室部署報告を読んで社会的問題となっている高齢者の独居や老老介護にまつわる諸問題は当該透析室でも例外では無く、特に緊急連絡先の把握や介入方法について、今回調査が為され、緊急時の対応が困難でそのリスクも高い等現状が把握できました。又、今後の課題として各スタッフの確認方法が統一されて無い事等含めて、緊急時の介入方法について、より具体的な方策の検討がどの部署においても必要であると痛感しました。

以上